



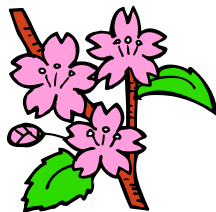
お花見の季節ですねえ。

4月です。2007年度のスタートです。
今年の冬は、まさに暖冬そのものとなりこの佐久地方でも2月頃は春を思わせるような暖かい陽気が続いていました。また、豪雪地域として県内有数の飯山でも雪不足に泣き、毎年催されている「いいやま雪まつり」は雪像用の雪を山から運ぶ騒ぎとなりました。それというのも、この冬は例年に比べて1.52℃気温が高く、降雪が少なかったためです。逆に3月は寒い日が続きましたが気候としては平年並みだったのではないのでしょうか。

このNewsが発行される頃には県下各地で桜満開(あるいは落花)の情報がでていていると思います。例年より1週間から10日早い開花だそうです。佐久にも花見の名所はいろいろありますが、早い開花予報に「お花見」を予定している方はちょっととまどっているのではないのでしょうか？

まあ、「花より団子」でしょうけどね。

さて、今号ですが、特集を2つ組みました。
1つは、2月に実施されました内部環境監査の総括。
もう1つは、5月に実施予定の更新審査についてです。
今年度もよりよい環境めざし努力しましょう。



本号の目次

P	項目	内容
1	1	4～6月期に実施する事項
2～3	2	新・ISO14001 寄稿(第3回) 東京支社：鈴木支社長
4～5	3	特集1「内部環境監査総括」
5	4	特集2「第2回 更新審査について」
6	5	2006年度を振り返って
6～7	6	環境情報【こぼれ話】
8	7	法令等改正情報
8	8	会社からお知らせ
8	9	今号の環境用語辞典
8	10	おまけ「佐久地方の気象」

配布先：A.S.B.C.M.D.Q.J.K.EMR.EMRs.EM 事,Ci.Kn.Na (15部)

(G., To=HPIにて確認)

1. 4～6月期に実施する事項

・例年ですが、4月は書類関係の作成が多く大変ですが、なんとか予定通り進むよう乗り切りましょう。
ISO14001活動が円滑に行えるように下記日程を基準に実施していきましょう。

・4月～6月及び7月期に実施/活動する事項です。

月	内容
2006年度 3月	2007年度 教育計画の作成/審査/承認 環境側面の抽出、まとめ EMPまとめ(2006第四節:末日) 2006年度EMP総合評価/まとめ
2007年度 4月	マネジメントレビュー 環境方針の見直し 2007年度 目的・目標の設定 2007年度 EMPの作成 ISO14001News(第8号)発行 書類の見直し～4月末 定期環境管理委員会(中旬) ※審査機関対応準備開始
5月	各種書類、記録類の点検 第2回 更新審査 10日～11日(予定) 審査指摘事項へのフォロー(報告書)
6月	EMPまとめ(2007年度 第一節:末日)
7月	ISO14001News通巻9号発行 — 刊行2周年特別号 —

※EMP=「環境マネジメントプログラム」の略

★年度が替わりました！

年度の切り替わりとともに、気になるのが文書/記録類の整備。「さて、どうしたものか？」と悩まずに、年度や記録の種類別にインデックスを付けてファイリングしましょう。見出し(インデックス)があるだけでもファイルは見栄えが違いますよ。「おお！やるな！！」是非実行してみてください。



ヒヤシンス

(プレス棟南花壇 撮影日：3月22日)

2. 新・ISO14001寄稿(第3回)

今号は、東京支社の鈴木支社長に寄稿していただきました。

『「地球温暖化」果たして人類の自助努力は間に合うのか?』

東京支社長 鈴木 順一

最近の新聞・雑誌・ニュースで取り上げられる環境に関する数々のキーワードを羅列すると、「RoHS規制」「グリーン調達」「地球温暖化」「CO2削減」「京都議定書」「バイオ燃料」「コージェネ」「風力発電」「太陽光発電」「エコ」「モーダルシフト」等々があります。

これらの言葉をよく見れば、環境有害物質を無くそう、或いは少なくしようというグループと地球温暖化を防止しようというグループに分けられそうです。RoHS規制により、当社で生産されるモータは外観(メッキ)が変わり、使用する部品の材料も変わりました。僅か2年でここまで変わるとは誰も予想しなかった変化です。これまでは部品の中にどんな物質が使われているかなど気にもしませんでした。今では環境負荷物質の膨大なリストを渡されて、それらが使用されていないかを調べさせられるし検査もされます。最近の海外旅行では飲み物やシャンプー類、化粧品、歯磨きなど液体状の物はすべて機内への持ち込み禁止。目薬ですらダメというヒステリックな状態は何か似たものを感じます。

今回私が考えてみようと言うのは、もう一つのグループである「地球温暖化防止」です。(RoHS規制にしてもグリーン調達にしても根っこの部分ではこの問題に繋がっています) この問題は知れば知るほど恐ろしい問題ですが、その結果を受ける人たちは将来に存在しているので、その痛みが伝わって来ません。今年の暖冬ぶりは皆さんも実感されたと思いますが、「暖かくて助かったよ」などと言われるのは今のうちでしょう。

右上図のように地球の温暖化は1900年の産業革命から始まっています。

石炭を燃やして水を温め、水蒸気を使った動力の活用が始まった訳で、この時から化石燃料の利用がスタートしました。その後の約100年で現在の石油文明に至っている訳ですが、このままだと100年後には海面の上昇により、練馬で海が見えるどころか海水浴が出来そうです。

著作に関わる画像ですので
HP上では公開できません

著作に関わる画像ですので
HP上では公開できません

東京の年間平均気温が1℃上昇すると宮崎の年間平均気温と同じになるそうです。

6℃も上がれば東京が沖縄になる訳で、その時は練馬も水没でしょうね。

ウォーターフロント等と洒落たことを言っているところにある億ションには魚が住んでいるでしょう。

著作に関わる画像ですので
HP上では公開できません

世界の大都市の多くは海岸に近いところにあります。発展の歴史から見れば当然のことですが、僅か100年で達したその地位を100年で海に返すことになるのは皮肉です。ジョークを言ってもらえるような状況ではありませんが、(正直に言えば)私は問題の深刻さを感じません。何故なら自分が死んだ後の今から100年後など実感がありません。これがこの問題に関する個人レベルでの恐ろしいところだと思います。

しかし現実には「今そこにある危機」ですから、少しでもそれを実感するために私のCO²排出量を計算してみました。それによると1週間で55.6 Kg, 1ヶ月では222.4Kg, 1年で2.7ton!との

ことです。(調査項目が少ないのでこの程度で済んでいます)このCO²を吸収するためにはテニスコート3.75面分の森林面積が必要だそうです。参考までに言うと日本人一人が排出する年間のCO²は平均で9.75tonで、これを吸収するために必要な森林面積はサッカーコート1面分だけです。...かなり気が重くなりますね。

少し古い数値ですが、1998年の統計では世界に於ける日本のCO²排出量順位は4位となっています。アメリカと中国が群を抜いていますが、日本にとってアメリカは大事なお客さん、中国は安くものを作る工場とすることを考えると、日本の排出量の実質はもっと多いのかも知れません。

著作に関わる画像ですので
HP上では公開できません

10年ほど前になりますが、ベリモ社(スイス)に行ったときの事です。ある公園に昔はこんな風に樹木が立っていたと風景のプレートが貼ってありました。実際に見たのは自動車の排気ガスで枯れ果てた木々の残骸でした。空気がきれいと思われているスイスでこれです。今日も中国では環境汚染を省みない生産が音を立てて轟進し、オリンピック開催で世界に自らの立場をアピールすると言う手法はかつての日本と同じです。であれば結果として見えて来るのが公害でしょう。やがて黄砂の代わりに何が飛んでくるのか...中国の問題と切り捨てる事が出来ないのが地球温暖化問題です。

かつて大地を闊歩し、数千万年という時間の中で繁栄を極めた恐竜も絶滅しました。地球の歴史の中では、恐竜を含めた数回の大絶滅が起きています。自然は余りにも偏った進化を拒絶するのかも知れません。人類は地球史上で最も繁栄した種だと思います。そして自然破壊を始めた最初の種でもあるでしょう。もし人類が進化の最終形だと

したら、自然は何時までも失敗作を放置してはおかないでしょう。

京都会議では先進国だけにCO²の削減数値目標が設定されました。最大のCO²排出国である米国は、これを不満として京都議定書から脱退しました。問題が何であるかが判っていて、その結果も判っていて対策になるとエゴが出る。お金が絡む問題の難しさが現れています。果たして人類は自然からの報復の前に自助努力で軌道修正できるのでしょうか？

国家と言う大きな組織では、経済・政治など余りにも利害関係が絡みすぎて動きが取れないのかも知れません。「地球のため」「後生のため」とかの大義を持ち出すと、結局は総論賛成、各論反対の方向に流れそうです。であれば個人のレベルで出来る省エネ生活や「もったいない」を背景にした考え方、生き方が問題解決の共通分母のような気がします。

3. 特集1 「内部環境監査総括」

2006年度の内部環境監査は、2月8日～10日に実施しました。例年は3月上旬に行っていましたが、年度末ということもあり他のISO活動と平行してしまい、忙しい過密な日程の中で行われていました。

今年度は、その過密スケジュールを打破する意味でも1ヶ月前倒して実施して効果を見る目的で2月に監査を実施しました。(ご協力に感謝します)

(1) 監査日程

月日	時間	被監査部署
2月8日	9:00～10:00	営業課
	10:05～11:00	経理課
	11:00～12:00	管理課
2月9日	9:00～10:00	開発課
	10:05～11:00	設備課
	11:05～12:00	プレス係
2月10日	9:00～10:00	製造課
	10:05～11:00	品質保証課
	11:00～12:00	環境管理責任者/事務局

内部監査員より責任者/事務局を最終日の最後に実施したい要望有り上記の監査順となりました。

(2) 監査チーム

監査チームについては、昨年2チームに分けてはどうか?という意見もありましたが今年度は4人いる監査員が持ち回りで1人1部署以上を担当(リーダー)となって監査を実施しました。

(3) オープニングミーティング

監査前の初回会議(オープニングミーティング)は、2月6日の部署長朝礼時に行われました。

(4) クロージングミーティング

3月29日の部署長朝礼時に実施し終了しました。

☆2006年度内部監査収束に当たり、内部監査員各位よりコメントをいただきました。

内部監査員の皆さんは、ISO活動当初より監査員としてご尽力いただいております。これからも宜しく願いいたします。

◇依田監査員(監査担当部署:事務局)

今年度の内部監査では、全員が各部署のリーダーとして監査にあたり、今までと違った見方もできたかと思われます。幸い、大きな指摘事項もなく、これは各部署の努力の結果と感謝するとともに、次へのステップを期待するものです。

世間では、原発に関連した不適合が今頃になって噴出しています。都合の悪いことを先送りすれば、更に都合は悪くなるばかりです。

日々の改善の積み重ねで『不都合な真実』を乗り越え『ハッピーフィート』の世界がいつまでも続くように願うものです

◇土屋監査員(営業、経理、開発)

今年度、内部監査を実施して感じたこと

- ・各部署において自分たちの仕事を、この機会に職務分掌として見直すこと。この中で、仕事には必ず何らかの環境影響があり、環境側面の特定(リストアップの見直し)が重要であると感じてほしい。その上で、環境目的、目標を決定し、活動に取り組んでほしい。



監査指摘事項の抜粋 [全文掲載していません]

◆責任者/事務局 : C指摘 2件

4.5.3 不適合並びに是正及び予防処置

不適合報告書への各担当の記載欄について、関与が明確に分かるように改めたほうがよいと思われます。

◆営業課 : C指摘 1件

4.4.5 文書管理

ファイルの表示、インデックスの活用などの工夫をされたらいかがでしょうか

◆経理課 : C指摘 1件

4.4.2 力量、教育・訓練及び自覚

配置転換者への一般教育が見えませんが

◆管理課 : C指摘 1件

4.5.3 不適合並びに是正及び予防処置

不適合報告書にて外工への工程確認指導がうたわれていますが、実施の経過が見えませんが

◆製造課 : C指摘 2件

4.4.2 力量、教育・訓練及び自覚

配置転換者への環境教育の実施状況が見えませんが

◆開発課 : C指摘 1件

4.3.1 環境側面

目的目標と環境側面との整合が見えてきません

◆品質保証課 : C指摘 2件

4.3.1 環境側面

目的目標と環境側面との整合性が見えてきませんが

◆設備課 : C指摘 1件

4.4.5 文書管理

ファイルの表示、インデックスの活用などの工夫をされたらいかがでしょうか

◆プレス係 : C指摘 2件

4.4.5 文書管理

文書の管理について工夫してみたいかがでしょうか

監査員コメント:次ページへ続く

◇井出監査員（管理、設備、プレス）

内部監査員は十分資料を集め事前にチェックリストの質問事項を箇条書きとして準備を整え、監査を受け入れる体勢作りが必要である。

監査を実施する者（リーダー）としては、公平かつ客観的な立場にあることを考えて、不適合があった場合にはそれを具体的に示す。チェックリストの質問事項を満たしていないからといって、必ずしもすべての項目が不適合でないことを反省して、これからの課題としていきたい。

◇菊池監査員（製造、品保）

内部監査も、もう何年もやってきたが、今年度初めて2部署の監査のチームリーダーを勤めた。

今までは、ただ席を埋めていただけの状態だったので、いざ進行するとなると、なかなかスムーズに事が進まない。何年も、見て、聞いて、一緒にやってきたのに、いざ実際にやると、むずかしい！

理解していると思っていても、実際には理解できていないことが多々ある。こんな状態で監査委員が勤まるのか？もっと勉強しなくてはと思うが、学ぶ能力にもぼつぼつ限界がきている。次世代の監査委員の育成が必要になっているのでは！

4. 特集2 「第2回 更新審査について」

1) 昨年度の第4回定期審査での指摘事項

ランク	被監査部署	指摘事項	規格要求事項
C	環境管理責任者・環境管理事務局	4月14日に行われたマネジメントレビューでは、環境パフォーマンスとして、各目的、目標(例:部品合格率、クレーム費用、電力等9項目+5項(数値目標のないもの))及びISOニュースの発行と伺いましたが、前年度、前々年度の実績が無いのに、どのようにして改善の機会又は、変更を指示するのかが分かりません。	4.6 環境マネジメントシステムの改善の機会及び変更の必要性の評価を含むこと
C	環境管理責任者・環境管理事務局	予防処置は、不適合の再発防止であると定義していますが、これは、規格で云う是正処置そのものでしかありません。潜在する不適合の原因となりそうなものを特定し、その発生を防ぐ方法をご検討下さい。 ※記録は未確認ですが、六価クロムメッキを三価クロムメッキへ変更する処置があったとの話を伺っています。(立派な予防処置です)	4.5.3 c) 不適合を予防するための処置の必要性を評価し、発生を防ぐために立案された適切な処置を実施する
C	営業課/管理課	営業課の環境マネジメントプログラムには、「得意先への出張、再検、処置費用、又は責任分担支払い等の明細公表」の目的に対して「諸経費を算出し、社内に公表」及び「品質意識の高揚を図り、経費を削減する」目標が掲げられていましたが、これらの目標の内、後者について「品質意識の高揚」と「経費の削減」がどのようになればOKが貰えるのか、明確ではありません。	4.3.3 その目的及び目標は、実施できる場合には測定可能であること
C	営業課/管理課	(管理課)9月28日に消火ポンプに関する訓練が実施されていますが、特定された緊急事態との関連が明確ではなく、その適切性の妥当性が確認できません。 ※緊急事態は燃料等の漏れです。(火災の文言がありません)	4.4.7 緊急事態への準備及び対応手順を定期的にレビューし必要に応じて改訂する
C	開発課/設備課 製造課 品質保証課	環境側面と目的、目標の関連が不明な以下のような事例がありました。 (設備課) 1, 廃油の発生(廃棄物)が環境側面として挙げられていますが、油漏れ(土壌汚染)が目的、目標として取り上げられている。 (製造課, 品質保証課) 2, 目的、目標として不良の低減を挙げていますが、環境側面(著しい環境側面、有益な環境側面)に該当する記述無し。 (開発課) 3, 環境配慮型製品への関与を目的、目標として取り上げているが、環境側面に該当するものがない。	4.3.3 目的及び目標を設定レビューするにあたって著しい環境側面を考慮すること

2) 今年度 更新審査のポイント

- ・本年の審査は、更新審査ですので過去3年間の実績は元より過去の審査で指摘された事項が改善されて維持されているのかも審査の対象となるはずです。
 - ・また、更新審査ということで審査員は2名が予想され、審査時間も2部署あるいは1部署で1~2時間実施されることが予想されます。(詳細が判明次第随時お知らせします)
- 尚、審査の日程ですが、5月10日・11日が予定されています。

5. 2006 年度を振り返って

◆2006 年度のISO14001活動内容

4月11日 ISO14001NEWS〔2006年2号(通巻4号)〕発行
 4月13日 事務局打合せ:定期フォロー、委員会、審査に向けて
 4月20日 環境マニュアル 改訂16版配布
 4月27日 事務局打合せ:委員会と審査に向けて
 4月27日 2006年度 第1回 定期環境管理委員会
 5月17日 事務局打合せ:審査に向けて、現場確認:フォロー
 5月22日 第4回 JIC-QA定期審査 (～23日)
 6月19日 事務局打合せ:審査フォロー
 7月11日 ISO14001NEWS配布〔2006年3号(通巻5号)〕発行
 7月24日 事務局打合せ:審査フォロー
 8月25日 事務局打合せ:審査フォロー
 9月26日 事務局打合せ:緊急事態への準備及び対応
 9月下旬 緊急事態への準備及び対応訓練実施〔各部署〕
 10月16日 ISO14001NEWS配布〔2006年4号(通巻6号)〕発行
 10月17日 事務局打合せ:緊急事態への準備及び対応、定期委員会
 11月6日 2006年度 第2回 定期環境管理委員会
 12月1日 事務局打合せ:定期フォロー、内部監査日程、外部クレーム処理
 12月22日 事務局打合せ:定期フォロー、内部監査日程、ISO14001News
 1月11日 ISO14001NEWS配布〔2007年1号(通巻7号)〕発行
 1月27日 2006年度内部環境監査計画書/実施要領書配布
 1月29日 事務局打合せ:定期フォロー、内部監査、審査までの確認
 2月1日 内部監査委員会:2006年度内部環境監査実施について
 2月6日 2006年度 内部環境監査オープニングミーティング
 2月8日 2006年度 内部環境監査 (～10日)
 2月14日 内部環境監査報告書/不適合報告書 各部署配布
 2月19日 環境側面抽出のお願い文書配布
 2月26日 事務局打合せ:定期フォロー、内部監査まとめ
 3月中旬 2007年度 教育計画書作成(各部署)
 3月27日 事務局打合せ:定期フォロー、審査までの日程確認
 3月29日 2006年度 内部環境監査クローズングミーティング
 3月下旬 2007年度 環境側面見直し(各部署)
 3月下旬 2006年度 ISO14001活動評価まとめ(各部署)

毎月定例の事務局の打合せは予定通り実施出来ました。
 定期環境管理委員会も、予定の2回実施出来ました。

※告 知

2007年度第1回定期環境管理委員会を、4月20日頃
 頃に開催いたします。詳細は後報しますが、各委員
 の皆さんは出席をお願いいたします。



6. 環境情報 【こぼれ話】

①冬場に欠かせない「スタッドレスタイヤ」

「雪が降る前に、スタッドレスタイヤに履き替えなければ。」冬になると気になるのがこのこと。さて、今や当たり前のように積雪寒冷地で履かれるようになったスタッドレスタイヤ。

「そういえば、前はスパイクタイヤだったなあ」なんて言う方もいるのではないのでしょうか？スパイクタイヤは、タイヤのトレッド面に金属などで作られたスパイク(スタッド=鋸)を打ち込んだタイヤのことで、日本で1963年に登場すると、積雪寒冷地ではほぼ100%の装着率を誇る状態であった。しかし、スパイクによって舗装したアスファルト表面が削られ粉じんとなって大気中に飛散、人体には酷い場合「気管支喘息」を発症させた。法律もスパイクタイヤの使用を厳しくし、1990年6月には「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律」が公布・施行された。

そして、登場するのが「スタッドレスタイヤ」である。スタッド(スパイク)の無いタイヤである事から、このように呼ばれている。またノーマルタイヤを夏タイヤ、スタッドレスタイヤを冬タイヤと呼ぶこともある。

◆スタッドレスタイヤの構造

スタッドレスタイヤは普通のタイヤに比べて、溝が深く設計されている。これは、積雪路で雪を溝が噛むようにしてグリップを得る為である。また、接地面で溝に噛んだ雪はタイヤが回転する間に溝から剥がれ落ち、再度接地した時には、新たに雪を噛む動きをする。また、ゴムは低温でも柔軟さを失わず、常温でも溶けないよう通常のタイヤとは異なるゴムを使用している。

◆スタッドレスタイヤの問題点

- ・ツルツル路面での停車、発進、コーナリング
＝滑りやすく、交通事故となる
- ・凍結防止剤などの使用量増加
＝道路上に散布された塩カルによって車体が錆びたりする

◆タイヤの今

環境配慮が盛んに言われているが、タイヤも今や「エコ」なるものが登場している。天然ゴムをより多く使い、合成ゴムの使用量を減らしたもの。転がり抵抗を減らし、燃費を良くしたもの。溝の本数や形を工夫したり、振動を吸収するシートを挟んだりして、騒音を減らしたもの。減り方の偏りを少なくしたり、成分を工夫するなどして、寿命を延ばしたもの。などなど、エコタイヤにも様々な工夫が施されている。

参考資料:フリー百科事典「Wikipedia」

②「もったいない」とは、素晴らしい言葉だ！！

ケニア出身の環境保護活動家であり、2004年に環境分野で初めてノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイ氏が、2005年2月に京都議定書関連行事のため、毎日新聞社の招聘により日本を訪問したときに同社編集局長とのインタビューでこの言葉を知り、日本人が昔持っていた「もったいない」の考えこそ、環境問題を考えるにふさわしい精神として感銘したという。マータイ氏は同年2月17日に当時の小泉首相(当時)と会談した際、「もったいない」を世界に広めたいと初めて言及した。その後、同年3月には国連女性地位委員会出席者全員に「もったいない」と唱和させたりするなど、世界へこの語を広めようとしている。

マータイ氏がテレビ番組などで語った所によると、「もったいない」に感銘を受けた後、この意思と概念を世界中に広めるため他の言語で該当するような言葉を探したが、「もったいない」のように自然や物に対する敬意、愛などの意思(リスペクト)が込められているような言葉、また消費削減(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)、修理(リペア)の概念を一語で表せる言葉が見つからなかったため、そのまま『MOTTAINAI』を世界共通の言葉として広めているという。

マータイ氏の活動を受け、小泉首相(当時)は2005年3月24日の2005年日本国際博覧会(愛知万博)開会式で「もったいない」に言及し、この言葉を万博を通じて広めたいと語った。この開会式にはマータイ氏も参加した。

“もったいない”という言葉を知って思い出すのは、公共広告機構(AC)のまんが日本昔ばなし風の「もったいないお化け」のCMではないでしょうか。CM開始は1982年12月と以外に古い。人参・大根・胡瓜・茄子・鞘えんどう・麦の穂の擬人化したお化け達が、『もったいねえ、もったいねえ』と食事を残した子供たちの周りを囲み叫ぶ。お化けに恐怖する子供たち…。それから子供たちは残さず食べるようになったというお話。食べ物を残さずに大切にしようというCMです。あなたは、食べ物もったいねえ事していませんか？

今や、世界の共通語になりつつある『MOTTAINAI』。ワンガリ・マータイ氏が提唱。「もったいない」という日本語をキーワードにして環境保全に取り組む運動のホームページを是非ご覧ください。

<http://www.mottainai.info/>

参考資料:フリー百科事典「Wikipedia」、MOTTAINAI

③気になるNewsから「相次ぐ航空機事故」

(安全衛生・品質関連情報)

2007年3月13日8:00大阪(伊丹)空港を離陸し、高知空港に向かった全日空1603便(乗客56人、乗員4人、ボンバルディアDHC8-Q400型)が、同空港上空で車輪がある前脚を出せなくなった。同機は車輪が出ないまま、二つある後輪だけで10:54に胴体着陸した。原因は、前脚の格納ドアを開閉するアーム(連結器)部分のボルト1本(直径8mm、長さ4.5cm)が脱落していたため。しかし、脱落していたのは長さの違う同じ規格品だった。このほかに脱落したボルトは見つかっておらず、製造時に誤って長さの違うボルトをつけた疑いが浮上した。全日空によると、格納扉の内部は整備、点検の対象になっていないため、一度も整備した記録はない。事故調査委員会は、製造段階で長さがわずかに違うボルトをアームの支点にはめたため、長時間かかってボルトが抜けた可能性があるとしている。

トラブルがあった機体は、2005年7月から使用している。総飛行時間は2966時間52分(3月10日現在)で着陸回数は4197回だった。

また、3月20日正午ごろ、熊本県天草市の天草空港発熊本空港行き天草エアライン201便(ボンバルディアDHC8-103型)が熊本空港に着陸する際、主脚と前脚の計3本すべてが出ず、手で車輪を出して着陸した。乗客15人、乗員3人の18人にけがはなかった。同機は高知空港の事故機と同系列のプロペラ機で、2004年1月に車輪を出し入れする油が漏れ、主脚が出なかったことがあった。高知での事故を受け3月13日(同日)に車輪を点検。同19日は格納扉の自動開閉を確認したばかりだった。

◇1度大空へ飛び立ってしまえば、あとは降りるだけ。しかし、その降りるとき(着陸)が一番事故の確率が高いのをご存じでしょうか？

「日本の航空事故総覧」HPによると、日本国内及び日本国内にある航空会社の海外での航空事故は1952年-2006年11月末までで413件(ハイジャック含)、うち着陸時での事故/トラブルはその半数以上を占めている。

1985年8月12日に起きた日本航空ジャンボ機墜落事故から四半世紀が経とうとしているが、航空事故は後を絶たない。地に足の着かない空での事故だけに航空会社は安全には絶対の保証をしてほしい。また、飛行機=道具と考えれば航空会社は品質管理(点検/整備)にも手を抜かないでほしい。

何万回に1回の事故によって、何人、何百という尊い命が奪われないとも限らない航空事故。飛行機に乗るときは、命がけで乗るようだ。

参考資料:Yahoo! ニュース、日本の航空事故総覧

7. 法令等改正情報(環境関連)

法規制の改正情報です。(抜粋)

当社に関わる法改正はありませんでした。

主な調査対象法規(当社関係分)

化学物質排出把握管理促進法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、騒音規制法、振動規制法、労働安全衛生法、消防法、法建築基準法、工場立地法、電波法、家電リサイクル法、自動車リサイクル法
長野県公害防止条例、佐久市公害防止条例
佐久市廃棄物の処理及び清掃に関する条例

8. 会社からお知らせ

農作業や介護などに適した「腰痛予防 らくらくエプロン」ホームページにて閲覧可能です。是非ご覧ください。

◇PC版ホームページURL

<http://www.nissei-motor.co.jp/>

◇iモード対応版URL

<http://www.nissei-motor.co.jp/i/>

9. 今号の環境用語辞典

す：スタッドレスタイヤ (Wikipediaより)

日本では、1982年にミシュランが初めて発売した。以降、様々なスタッドレスタイヤが各社より発売されている。一般には、「冬用タイヤ」で浸透。

せ：日本航空ジャンボ機墜落事故 (Wikipediaより)

1985年8月12日、日本航空123便、羽田発伊丹行、ジャンボ機が群馬県多野郡上野村の高天原山に墜落した事故である。乗員乗客524名中520名が犠牲となった最悪の事故。著名な犠牲者としては、歌手の坂本九、阪神タイガースの中埜肇球団社長、ハウス食品の浦上郁夫社長 など多数。

も：もったいない【勿体無い】(大辞泉より)

- 1 有用なのにそのままにしておいたり、むだにしてしまったりするのが惜しい。「捨てるのは一・い」「使わないでおくには一・い人物」
- 2 身に過ぎておそれ多い。かたじけない。「一・いおほめのお言葉」
- 3 不都合である。ふとどきである。もつてのほかである。

◆ 次号予告 ◆

★創刊2周年特別企画

★第2回 更新審査総括

★新・ISO14001寄稿(第4回) などなど

10. おまけ「佐久地方の気象」



「今年は、暖冬」という印象は2月の気候が暖かく、気温が高い日が続いたことが大きいでしょう。佐久で2月の最高気温が10℃を越えた日数は、9日ありました(2月の最高気温:5日の14.9℃)。逆に3月は21日までに最高気温が10℃を越えた日数は6日でした。1、2月が暖冬傾向であったのに対して3月は逆に真冬に戻った傾向となりました。

(しかし、3月の最高気温記録日は4日の18.5℃)

(3月21日以降は、10℃を越える日が続く)

今年の平均気温は、1月:-0.7℃、2月:1.4℃、3月:3.2℃であり、例年(下表「1979-2000年平均」参照)と比較しても気温が高いことが分かる。

(参考に、昨年2006年の平均気温は、1月:-2.8℃、2月:0.3℃、3月:2.6℃でした)

気温が比較的高かったこともあり、降雪も例年になく少ない年となっています。

☆佐久の月別平均気温(1979-2000年平均)

1月	-1.8℃	2月	-1.3℃	3月	2.6℃
4月	9.2℃	5月	14.4℃	6月	18.4℃
7月	22.0℃	8月	23.2℃	9月	18.7℃
10月	12.1℃	11月	6.2℃	12月	0.9℃

▼今後の気候予報

この冬は「暖冬」で、降雪量も少なかった。そのためか夏は、逆に冷夏、水不足が心配されます。しかし、気象庁発表の季節予報では、夏(6~8月)の平均気温は例年より高い予報で、6月、7月は平年と同様に曇りや雨の日が多い予報となっていますが、予報通りと行くでしょうか?

参考資料:気象庁

△ 編集後記

◆今号「環境情報 こぼれ話」で取り上げた『もったいない』ですが、今の世の中「もったいない」ことだらけではないでしょうか? 「衣・食・住」全ての生活でいくつかはもったいない末路をたどっているような気がします。料理を作りすぎた/食べられないから捨てる/洋服を買ってみたものの気に入らなくなった/着ないから捨てる/引っ越しなどでいらなくなった家具などを捨てる。・・・嗚呼、もったいない。しかし、もったいないから使い続けるのも限度がある。もったいないからといって食べ過ぎるのも体によくない。人間適度が大切であるということでしょうか。

◆さて、次号は、2007年第3号(通巻9号)となり7月11日発行予定です。2周年特別号ですが、中身はいいたい?

企画・作成・編集 : 武者 弘文(副環境管理責任者) ㊞

発行責任者 : 中山 俊明(環境管理責任者)

発行 : 日精電機株式会社 ISO14001 環境管理事務局

お知らせ ISO14001 News は、季刊紙です。四半期に1度、4/7/10/1月に発行します。